

令和3年度学校経営報告

東京都立杉並工業高等学校
校長 高野 学

1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

コロナ禍の1年間、生徒及び教職員の健康を最優先とし感染防止に努めながら、オンライン授業等を積極的に活用して学びの機会を確保した。令和4年度から実施する新学習指導要領に則った教育課程を策定し一部前倒しでスタートさせたが、11月には令和6年度に学科が改編されることが決定しその実施に向けて動き出した。

(1) 今年度における取組目標

コロナ禍における安全対策を最優先に行いながら、学校行事や部活動を工夫して行い、生徒の健全育成を図るとともに、学習支援システムを活用するなど学習の機会を確保しながら学力向上を目指す。そして、都の工業高校改革を見据えた教育課程およびシラバスの改善を進め、生徒の力を伸ばし、希望する進路が実現できる学校を目指す。

(2) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
① グランドデザイン「本校で育てる資質能力」「資質能力の育て方」に基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を活用した授業を実践する。	教育課程委員会を推進母体とし、専門教科と普通教科の融合、AL的手法、ルーブリックを活用した評価法を加味したシラバスを各教科で作成中である。指導と評価の一体化を目指し観点別評価の導入に向けた準備を行った。いずれも次年度実施に向け動いている。
② PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。そして総合的な探究の時間の代替である課題研究を本校の教育活動の集大成として位置付け指導する。	東京交通会館との産学連携事業をスタートさせた。電子科の課題研究「電光掲示板の作成」を軸として、理工環境科の課題研究「環境測定」を加え、科を超えた課題研究とした。
③ PBLを進めるため、他校種・企業との連携や外部講師の招聘などを積極的に行う。	オリンパスとの産学連携事業を12月に行った。2年生特別授業として講師を派遣してもらい先端技術に触れる機会とした。前後に事前事後学習を取り入れた。生徒のキャリアデザインへの繋がりに課題があった。3月ものづくり人材育成事業を活用し、東京慈恵会医科大学講師を招いての特別授業を行った。
④ IT人材の育成を目的とするPtech先進校の学校視察・授業見学を行い授業改善を目指す。	先進校町田工業のPtechの取組みをオンラインで視聴することができた。東京テクニカルカレッジ専門学校への視察を7月に行った。
⑤ 杉工寺子屋を組織的に取り組み、補習補講を行い、中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。	各定期考査前に寺子屋を開講し、意欲的な生徒及び必要な生徒への補習を行った。日本語の不自由な生徒への日本語指導を外部指導員を招き行った。
⑥ 生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。	電気工事士10名合格(昨年2名) 危険物取扱者丙種38名合格(昨年14名) 特殊無線技士39名。 新たに、上級救命救急、ITパスポート資格試験を行った。
イ 進路指導	
① 「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。	進路の手引きの内容を精査し、1年生から配布できる内容へ改定した。次年度は1年生から配布する。
② 進路調査や模擬試験等を行い、生徒の能	就職希望者学校あっせん74名、公務員3名、縁故6名、就職

力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	希望者 100% 内定。進学希望者 大学短大 31 名合格。進学準備 2 名、未定 1 名。 卒業生 117 名の内 3 名が未定。
③ インターンシップを 2 年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	コロナ禍で辞退する企業会社が数社あり。5 日間で実施。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒への評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が有意義であったことを記した。次年度も同様の形式で実施する。
④ 専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。	「人間と社会」はコロナ禍で授業内容を工夫せざるをえなかった。教務部が管理することを明確にし、継続的・統一的な内容で指導できる体制を作ることが課題である。
ウ 生活指導	
① 登校時やホームルーム、教科指導など、様々な場面で、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導は通年行った。コロナ禍による体温チェックも登校時に生活指導部が主体に行った。身だしなみに大きな乱れは無く、落ち着いた環境が保たれている。
② 保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。	コロナ禍で時差登校や分散登校を実施した影響もあり例年とは比較にならないが、1 日当たりのクラス平均遅刻者数は、0.55 と昨年の 0.68 を下回った。
③ 「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。	いじめ届け出件数 0 件。
④ 授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	セーフティ教室を実施。教科「情報技術基礎」で指導を行った。SNS での特別な指導に繋がるトラブル 0 件。
エ 特別活動・部活動指導	
① コロナ禍で制限がかかる中、できることを工夫しながら特別活動を実践する。	体育祭は 2 年生 3 年生の 2 学年で規模を縮小して実施。文化祭は外部公開無しで実施。3 年生修学旅行は遠足に代替。3 月球技大会は中止とコロナの影響が大きかった。
② 部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組む活躍する機会を作り出す。	コロナ感染防止対策を徹底した上での活動を余儀なくされた。柔道部で陽性者が同時期に複数名判明した。部活動加入者は減少傾向にある。柔道部東京都ベスト 8。電子工作部南関東優勝
③ 「2020 オリンピック・パラリンピック教育」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	7 月、オリパラ事業を活用し、義足のアスリート、義肢装具士の方を招いての講演会を行った。
④ 行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動等など、本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	コロナ禍で、歌を歌う事も出来ず、生徒会活動も低調となり、目的を達成することができなかった。日常的な挨拶が習慣化されている生徒が多数。
オ 保健指導	
① スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを	ケース会議を 1 回開催した。スクールカウンセラーとの連携は円滑に行われているとは言えない。今後は定期的にケース会議等を開催できる体制を作っていく。

図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	スクールカウンセラーによる校内研修「発達障害の理解」を1回実施した。
②感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。	校内消毒は環境整備員が行っている。施設の老朽化による改修・修理が課題である。
③特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。	中途退学者の数は昨年8人から3人と急減した。コロナ禍で休校期間が長かったことも影響していると考えられる。
カ 募集・広報活動	
①HPの運用、外掲掲示板の活用、地域小学校・中学校との連携など広報活動・募集活動を充実させる。	HPの更新回数は、昨年162回が今年度は175回と増加。ツイッターを含め情報発信は充実した。学校見学会、8月5回実施。学校説明会、秋3回実施。体験入学、秋3回実施。
②ものづくりの面白さを子供たちに伝える活動など、地域の小・中学校との連携事業の内容をさらに充実させ、地域社会に貢献し、信頼される学校づくりを推進する。	昨年3回行った近隣小中学校への出前授業はコロナの影響により1回となった。7月3日(土) 杉並区立三谷小学校で6年生：本校へ来校してものづくり体験、5年生：電子科教員出前授業
③学校案内、ポスター、パワーポイントによる学校紹介をカスタマイズする。	学校案内・ポスターを刷新した。音声入り説明パワーポイントをHPに掲載。
キ 学校経営・組織体制	
①日常的に教員の授業力を向上させ授業の質を確保するため、先進校授業参観や相互授業参観、研究授業、研究協議の活性化を図る。	若手の研究授業に参加する教員は増えている。オンライン授業を全ての教員が参加して実施。ユーチューブへの動画配信などは複数名の教員が実施。新たな授業形態への取り組みが進んでいる。
②DXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保証する。	自宅にICT環境が整わない生徒については学校機器を使い学校で授業を行った。
③日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土づくり、服務事故防止に努める。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行っている。
④体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。	教職員の服務に関する意識は高い。部活動指導方針に、体罰にかかわる事項を追記させている。教職員は定期的な研修等を通じて理解を深めている。
⑤管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。	コロナ禍で、分散登校や時差登校が行われ、部活動が中止するなど業務の内容が変化し超過勤務は激減した。在宅勤務のルール作りなどの課題が残る。
⑥防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携し実践的な防災教育を推進する。各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	水道局と連携した1年生防災活動については2度延期したが最終的に中止となった。
⑦創立60周年行事に向けた準備をスタートさせる。	次年度委員会を立ち上げ準備作業をスタートさせる。

(3) 数値目標と達成度

	項目	数値目標	実績値	
			昨年度	今年度
学習指導	杉工寺子屋は学習サポートに役立っている	80%以上		82%
	平日授業以外学習時間1時間以上（朝・放課後補習補講を含む）	10%以上	11%	15%
	資格取得等の指導の充実、国家資格取得者数	200人以上	45人	87人
	資格取得等の指導の充実、認定資格取得者・検定合格者数	300人以上	264人	280人
進路指導	キャリア教育の充実、インターンシップの実施	2学年で実施	5日間 2学年	5日間2学年
	就職指導の充実、就職希望者内定率	100%	98%	100%
	学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度	80%以上	87%	91%
	進学希望者の大学・専門学校進学率	95%以上		98%
生活指導・保健指導	遅刻者数（1日当たりクラス平均数）	0.8人以下	0.68人	0.55人
	教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修	2回以上	1回	1回
	暴力行為、いじめ件数（教育委員会届け出数）	0件	0件	0件
	特別な支援を必要とする生徒に関わる会議	年5回以上	1回	0回
	中途退学者の数（転学を含まない）	10名以下	8人	2人
部活動指導	学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度	80%以上	58%	82%
	部活動加入率	70%以上	49%	54%
	地域連携活動	5回以上	3回	0回
募集・広報活動	学校説明会、見学会参加者数延べ数	600人以上	316人	340人
	HP更新回数	300回以上	162回	165回
	学力選抜応募倍率	1.1倍以上	0.48倍	0.41倍
	推薦選抜応募倍率	1.5倍以上	0.84倍	0.57倍
組織体制運営	学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う	80%以上	81%	85%
	学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う	80%以上	92%	91%